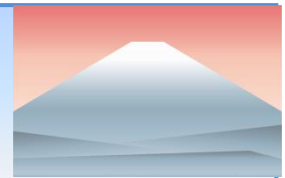


富士河口湖町 教育センターだより

No.16

令和元年11月27日

文責 渡辺 富美夫



大切な 小さな一歩

町教育センター 教育相談活動

ジャガイモのガレット作り



No.10で紹介しましたが、町教育センターの主な活動の1つとして教育相談があります。「学校に行けない子どもたちの居場所」「再登校に向けエネルギーを充填する場」、「進級進学に向け学力を保證する場」としての役割を果たしてきています。

現在は数名が来室しています。主な活動は、教科の学習、創作活動、体育活動、校外学習などそれぞれの子どもたちにとってパワーを蓄えられる充実した時間を考えています。また、交流活動として、来室している子どもたちが一緒に活動する場面も作っています。2学期は、自分たちで育てたじゃがいもやサツマイモを調理する活動もあります。11月1日には「じゃがいものガレット」を作りました。スイートポテト作りも予定しています。このような活動を通して、少しでも教育センターの役割が果たせるよう努めています。また、担任、養護教諭、管理職の先生などとも話をする機会を持ち、連携を密に取っています。

話すこと

センターに来ると、すぐに教科書やノートを出して学習に黙々と取り組む子もいますし、一通りセンター内を確認して今日やることを決める子もいます。また、相談員に話しかけてくる子もいます。時には、話疲れしないかと思うぐらい夢中になって話すこともあります。次のように、話すことで得られる効果があると言われていしますので、話をすることを大切にしています。

- ①カタルシス効果—話すことによって、胸の内にしまっていたものを言動として外に出すと、まずはすっきりします。ストレスがたまったときにお友達とおしゃべりするとストレス発散になるのと同じ効果です。
- ②自分の状態に気づく—カタルシス効果のもとで、さらに内面を言葉にすることで、話し手が自身を客観的に知る機会になります。
- ③自分自身を受け入れられるようになる。—仮に話した内容が否定的だったとして、それでも聴き手が興味をしめしてくれると、話し手本人が受け入れてもらっているように感じます。
- ④自己理解が進む—一人で頭の中で考えているとグルグルと同じような思考パターンになりますが、聴き手に相槌や聞き返し、質問などをしてもらおうと、今まで自分で気がつかなかった考えや思いが出てきたりします。それによって新しい解決法や改善方法が自ずと見つかることがあります。
- ⑤信頼関係ができる—自分の内的な世界観を話すことを聴き手にそのまま受け取ってもらえることは、話し手自身を肯定すること、尊重することになります。しいては信頼関係が深まります。

センターでは、学校に行って子どもたちの話をきくこともあります。初めはなかなか話せなかった子が、次のときには堰を切ったように話してくれることもあります。

話すことが辛い場合もありますので子どもの気持ちに寄り添って話をきくようにしています。

「わたしのココロはわたしのもの」

—不登校って言わないで— ゆまに書房 より

毎日家に帰ったら ママは学校のことをきく
ママの中では私はいいい子 今日は何を話そうか
学校の話きくママの顔は 今日もうれしそう
ああよかった でも オヤツがノドにつかえる
(中略) ママがやさしく言ってくれた
「ミクのココロはミクのたいせつなもの ミクの
ペースでだいじょうぶよ 話をしてくれてありが
とう」 私はホッとした